

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

北海道駒ヶ岳では、26日頃以降、山頂火口原浅部を震源とする地震が増加しており、28日20時30分頃にはマグニチュード1.4（速報値）とやや規模の大きな地震が発生するなど、地震活動に高まりが認められます。

今後、火山活動がさらに活発化した場合には、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げる可能性があります。

○活動概況（図1～11）

北海道駒ヶ岳では、23日から24日頃にかけて山頂火口原付近（海拔下1km付近）で火山性地震がやや増加しました。その後、26日頃から山頂火口原付近浅部で地震が増加し、28日20時30分頃にはマグニチュード1.4（速報値）のやや規模の大きな地震が発生するなど、地震活動に高まりが認められています。また、26日13時頃以降、山頂火口原付近に設置した傾斜計で山頂火口原方向が上がる傾斜変動がみられています。

監視カメラによる観測では、昭和4年火口など、山頂火口原の各火口の噴気活動に特段の変化は認められていません。

なお、火山性微動は観測されていません。また、GNSS連続観測では、特段の変化は認められていません。

○活動評価

北海道駒ヶ岳では、26日頃以降、山頂火口原付近の傾斜計で火口原方向上がりの傾斜変動が観測されており、地震活動にも高まりが認められています。

火山活動にやや高まりが認められており、今後、さらに活発化した場合には、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げる可能性があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

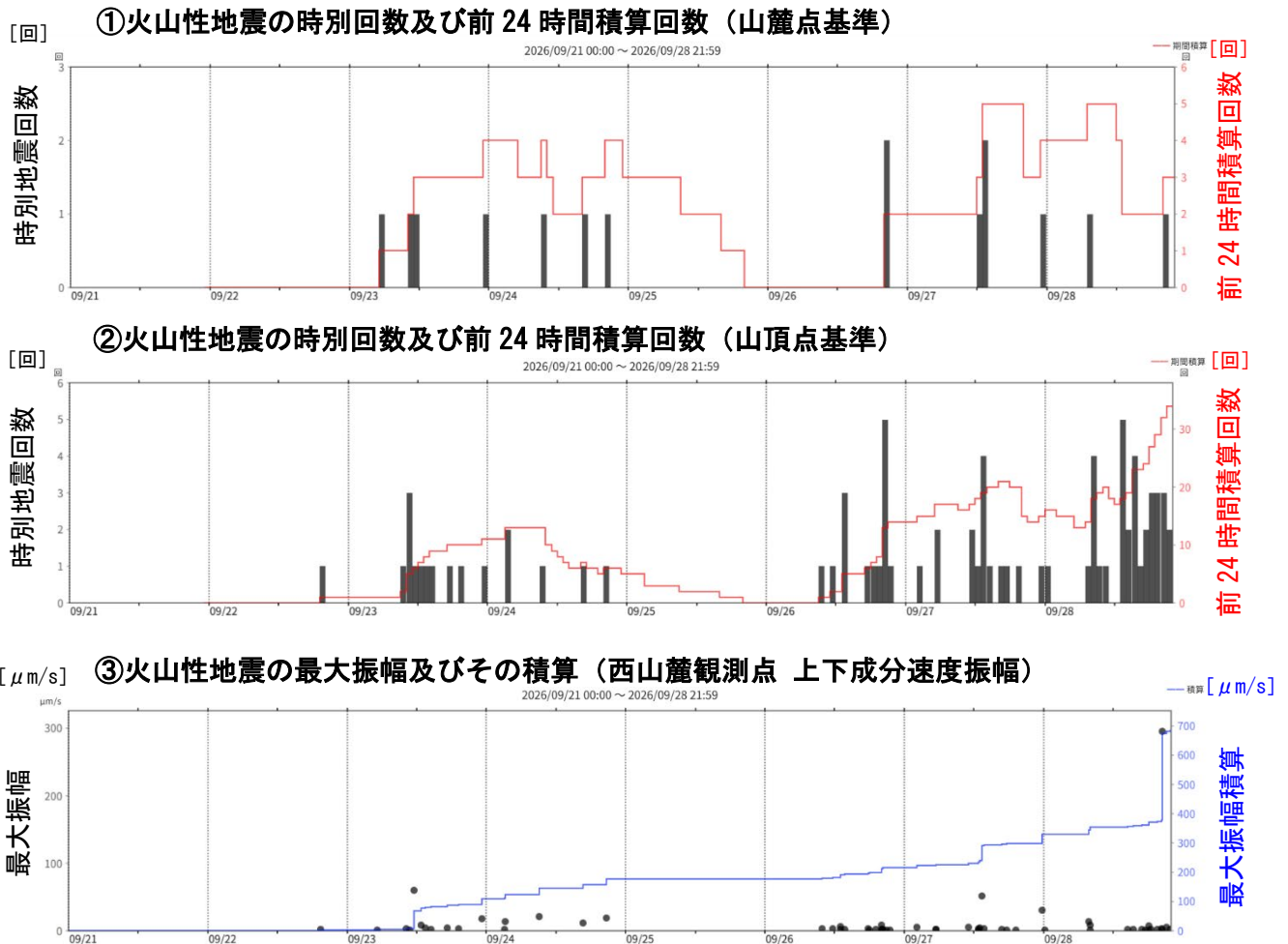


図1 北海道駒ヶ岳 火山性地震の時別回数及び最大振幅（9月21日00時～28日22時（速報値））
③は山麓点基準及び山頂点基準いずれかを満たす火山性地震の最大振幅を示しています。

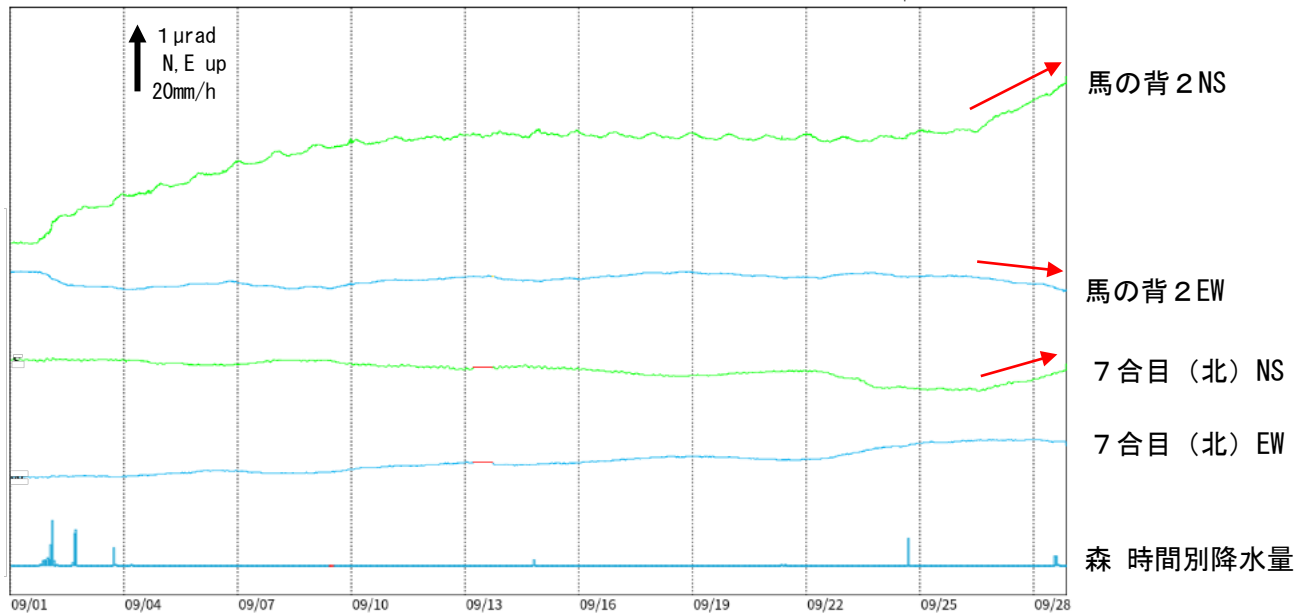


図2 北海道駒ヶ岳 傾斜計の推移（9月1日00時～28日21時、分値）
7合目（北）は観測点下500mに埋設したセンサーのデータを使用しています。
グラフの赤色部分は欠測を示します。
・26日13時頃から山頂火口原方向が上がる傾斜変動が認められています（赤矢印）。

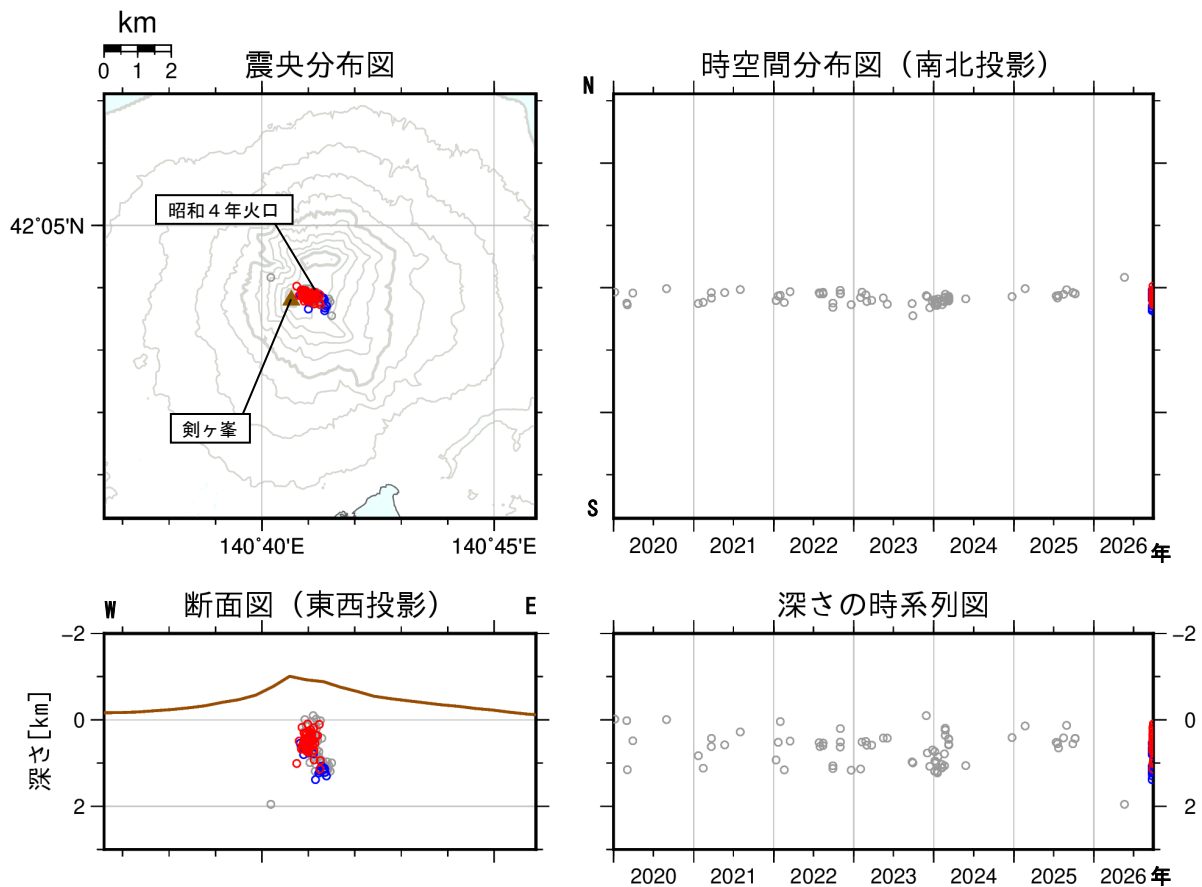


図3 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2020年1月～2026年9月28日21時）

- : 2020年1月～2026年9月22日の震源
- : 2026年9月23日～9月25日の震源
- : 2026年9月26日～9月28日21時の震源

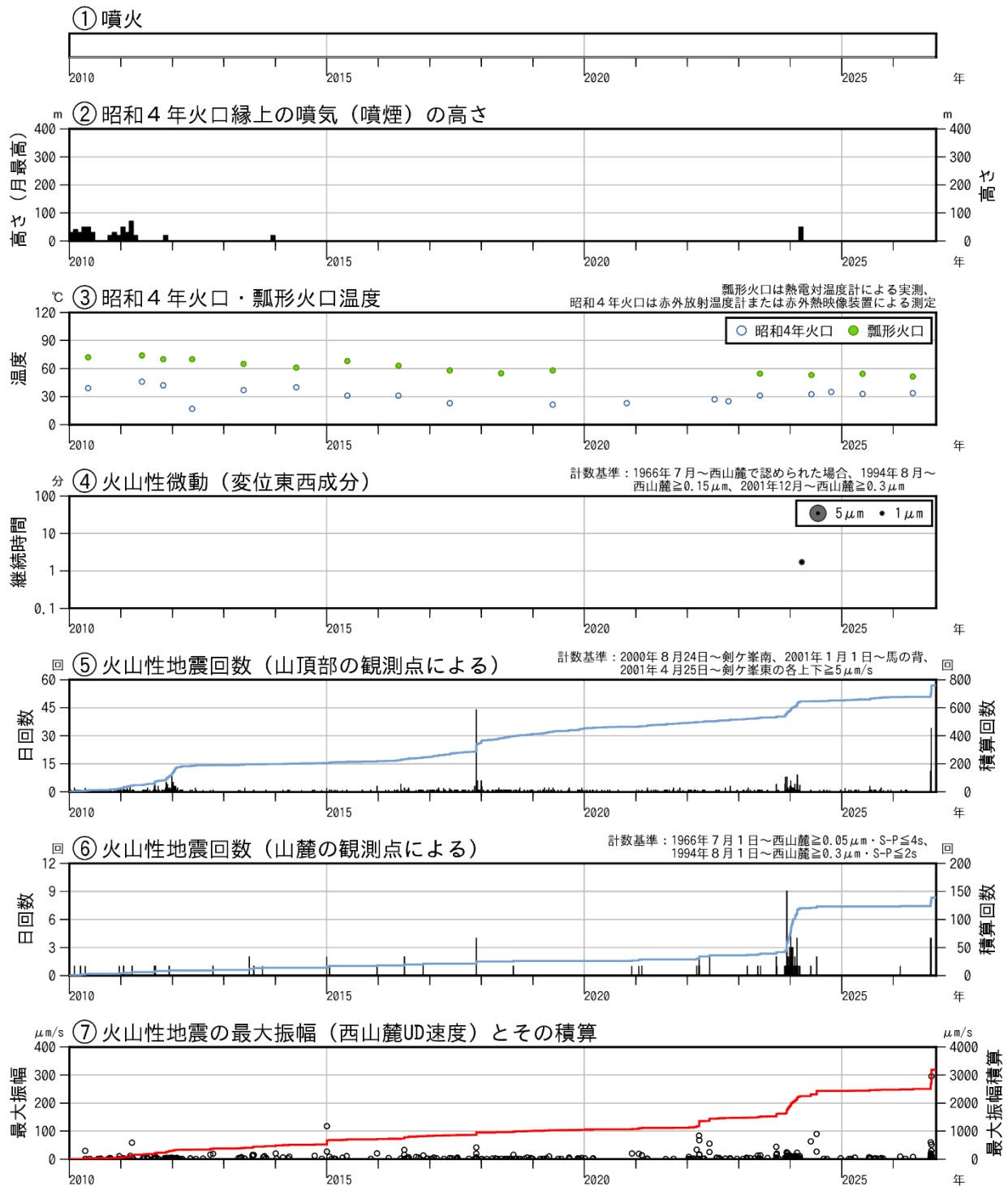


図4 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図(2010年1月～2026年9月27日)

各火口の位置は、図11を参照してください。

⑤⑥の棒グラフはそれぞれ別の基準で計数した火山性地震の月回数、青色の折れ線は積算回数を示します。

⑦のシンボル(○)は山頂点基準及び山麓点基準のいずれかを満たす火山性地震における西山麓観測点上下成分の最大振幅、赤色の折れ線はその積算を示します。



図5 北海道駒ヶ岳 南東側から見た山頂火口原の状況（鹿部公園南東監視カメラによる）
・各火口の噴気活動の状況に特段の変化は認められません。



図6 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況（剣ヶ峰監視カメラによる）
・昭和4年火口の噴気活動の状況に特段の変化は認められません。

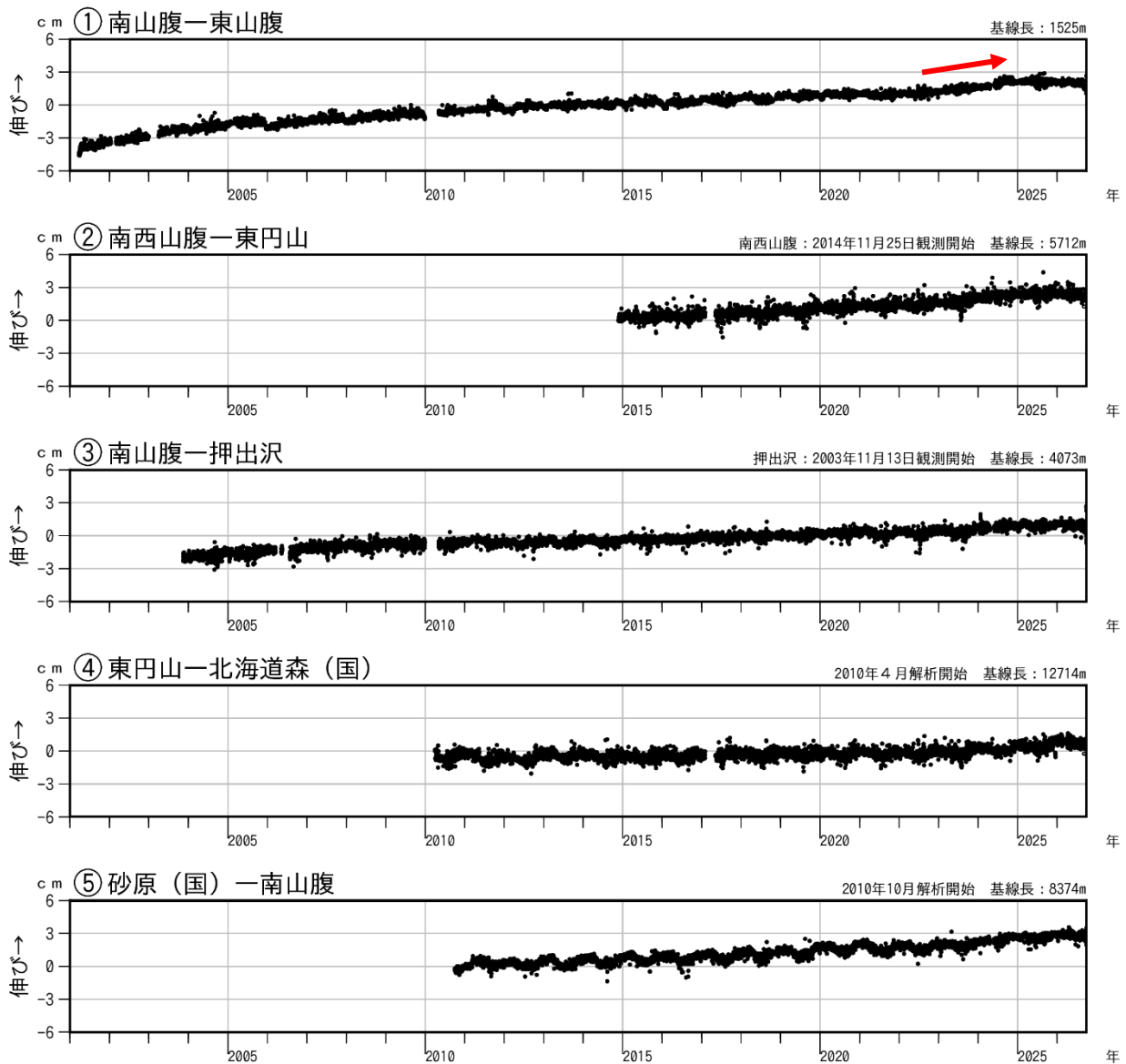


図7 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2026年9月27日）

グラフ①～⑤は図8の観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示します。

- ・2022年夏頃から2024年夏頃にかけて山頂部の一部基線でわずかな伸長（赤矢印）が見られましたが、その後は概ね停滞しています。
- ・長期的には、山頂火口原付近を挟む基線（基線①、③）で断続的な伸長が続いています。

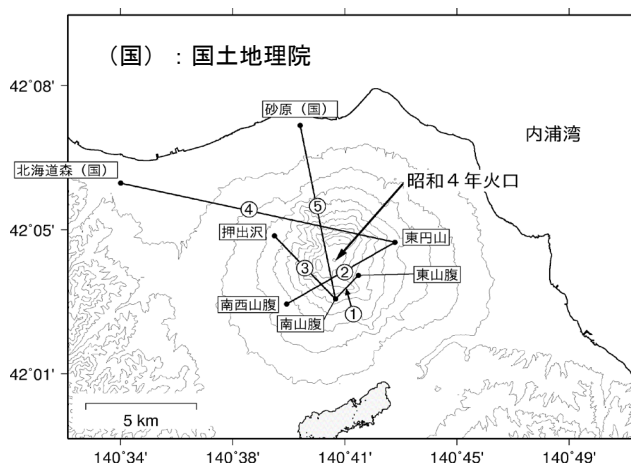


図8 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測の観測点配置図

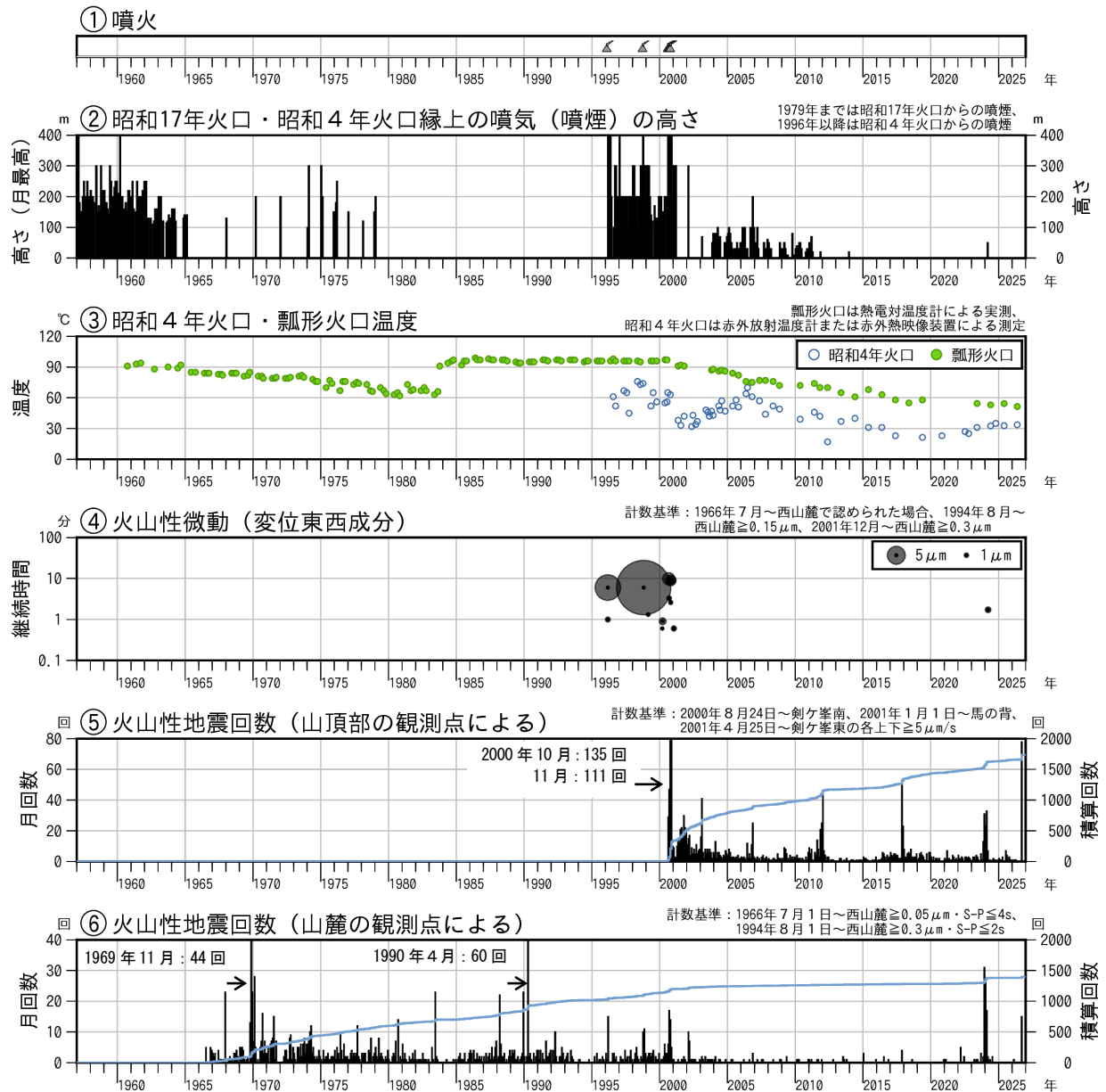
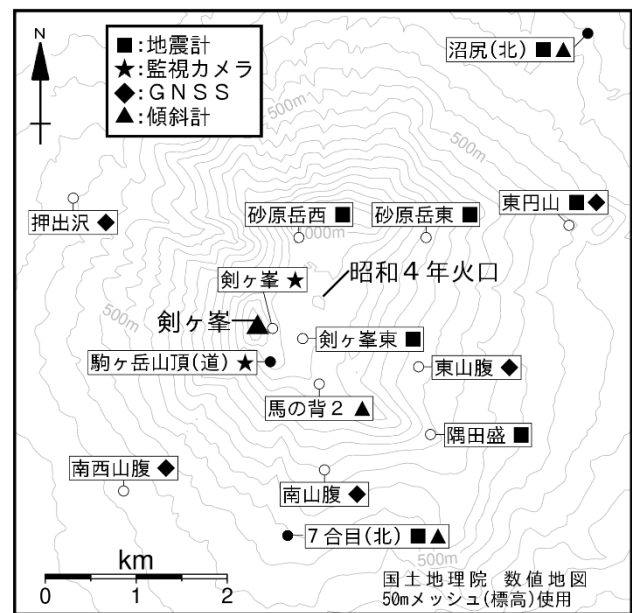


図9 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2026年9月27日）

各火口の位置は、図11を参照してください。

⑤⑥の棒グラフはそれぞれ別の基準で計数した火山性地震の月回数、青色の折れ線は
積算回数を示します。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。左図中の四角囲みは右図の表示範囲を示します。
(国):国土地理院、(北):北海道大学、(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所、(道):北海道

図10 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

